

現場教育を改善するための 人材育成事例検討会の実施結果報告

Result Report of the Human Resource Personnel Training Meeting
to Improve Training in Organizations by Case Studies

大石 奨^{※1※2} 鈴木 克明^{※2}

Susumu OISHI Katsuaki SUZUKI

豊田市消防本部^{※1}

Toyota City Fire Department

熊本大学教授システム学研究センター^{※2}

Research Center for Instructional Systems ,Kumamoto University

＜あらまし＞ 本稿では、社会人が実践している教育をインストラクショナルデザインの視点で見直し、改善策を見出すための検討会を行った結果について報告する。多くの社会人は、学びに関する専門的知識を専門機関で習得したことがなく、自らの経験や自己学習によって教育設計を行っていると考える。このため、実践されている一事例ごとに時間をかけて掘り下げ、どう改善したらよいかの糸口を探ることを目的とした。開催後のアンケートでは、本検討会について興味深く参加してよかったなどと意見や、実践事例の解決の手がかりがつかめたなどの回答を得た。

＜キーワード＞ インストラクショナルデザイン、社会人教育、教授法、教育方法

1. はじめに

高等教育機関などではFDやSDなどの授業改善に向けた取り組みがなされている。しかし、企業などの社会人教育の現場では、学びに関する専門的知識を専門機関で習得した者は少なく、自らの経験則や勘に基づいて教育がなされていることがある。社会人教育の重要な視点は、限られた時間内に成果に結び付けなければならず、また必要性を訴え学習者自身が学ぼうとする気力を出させることが必要となる。このため、現在行われている現場教育が効果・効率・魅力を高めるためのインストラクショナルデザイン（以下 ID）に基づき設計されているかをチェックし、改善策を見出すことでより良い教育に近づけることができると思える。

2. 対象と方法

2. 1. 対象

本検討会参加の 27 名を対象者とした。参加者の職種は表 1 の通り。

表 1 参加者の内訳

看護師	大学教職員	会社員	救急救命士	放射線技師
9	7	6	3	2

2. 2. 方法

本検討会にて提示された事例は、参加者が様々な背景であることから「薬剤会社販売員向け教育」「手術室看護師向け教育」「自動車関連社員向け教育」の 3 事例（各事例 60 分）を取り扱った。検討会終了後に、鈴木（2015）を参考にしてアンケートで意見を回収した。（表 2）

表 2 アンケート項目

- Q. 01 検討会参加後の自分の気持ち
- Q. 02 このような検討会を今後も続けてほしい
- Q. 03 同僚や後輩にも勧めたい
- Q. 04 発表者のみ「自分の実践を学習理論を用いて改善し、効果・効率・魅力を向上できる」
- Q. 05 参加者のみ「学習理論がどのように役に立つかを実践を通して学ぶことができる」
- Q. 06 参加者のみ「自分の実践を改善する方法を学ぶことができる」
- Q. 07 今後、類似した問題に直面した時の解決の手がかりがつかめた
- Q. 08 これから人事育成の場で使えそうなアクションプランが作成できた
- Q. 09 職場に戻ったら本検討会で得た成果を活用するつもりだ
- Q. 10 本検討会について、良かったと思う点を 2 つ以上描いてください。
- Q. 11 本検討会について、今後改善できると思う点を 2 つ以上書いてください。（可能ならばどうすれば良いのかアイディアもお願いします。）

3. 結果

3. 1. 参加後の気持ち

本検討会に参加しての印象を測定するため、自分の気持ちについて7段階（1：否定～7：肯定）にて回答を得た。（図1）

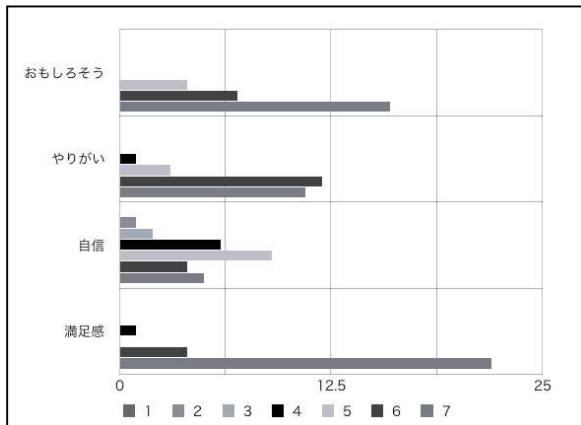


図1 参加後の気持ち

3. 2. 参加後の目標到達度

本検討への参加者募集案内時に、発表者及び参加者のメリットとしてQ4～Q6を掲げた。また、今後の検討会開催などについて4段階（まったく思わない・思わない・そう思う・とても思う）にて回答を得た。（図2）

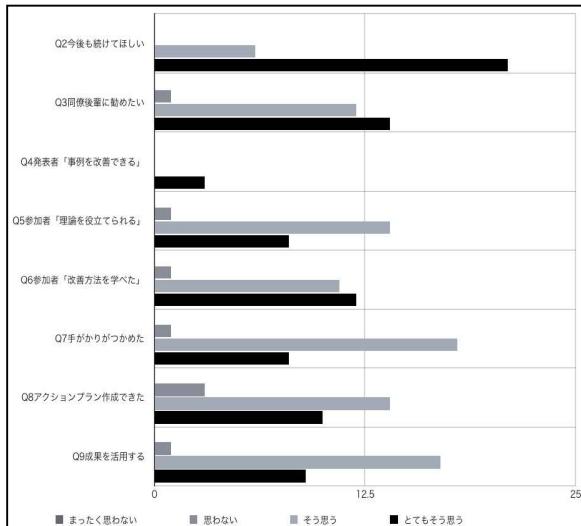


図2 目標到達度など

3. 3. 本検討会の良かった点

検討会に参加し、良かったと思った点について自由記載にて回答を得た。（表3）

表3 検討会の良かった点

- ・ グループワーク（4人）での討議が活発にできること
- ・ 自分が与えてしまっている学びの場の不安が少し晴れた
- ・ プレゼン・グループディスカッション・Q&Aのテンポ感が良かった
- ・ 発表者からの事例発表と各チームのアドバイス等のやり取りが大変参考になった

- ・ 他者からの冷静な意見が参考となった
- ・ 情報の整理の仕方が参考になった
- ・ 他業種からの意見
- ・ 具体的な事例から改善策までが明確になり、自分の現在取り組んでいる研修設計に活かすことが可能となった
- ・ 鈴木克明先生の直接的なアドバイスを聞くことができた
- ・ 実際の手法の展開方法をよく理解できた
- ・ 実践的なアドバイスが聞けて良かった
- ・ 他職の対応を理解した
- ・ グループワークでの他者意見を聞くことができた
- ・ 具体的な事例について、現実的な解を考えることができたこと
- ・ 自身の事例について検討することができたのでとても良かった。いつも根本的なところがおかしいと感じていたため、そこが解決できて良かった
- ・ 他職種の考え方わかり、業務に生かしていくれと思いました
- ・ 他グループのホワイトボードが見れたのが良かった
- ・ ロールプレイの目的・効果的な方法が分かった
- ・ IDの使い方が具体的にさけたこと

3. 4. 本検討会の改善できる点

検討会に参加し、改善できると思った点について自由記載にて回答を得た。（表4）

表4 検討会の改善できる点

- ・ 何か参加者全体にも事前課題をもうけてはいかがでしょうか
- ・ 人数が多く全体ディスカッションが活発でなかった
- ・ 発表者の時間管理
- ・ 企業からの参加者を増やす。全体のバランス（医療系・企業）を適正化する
- ・ 参加者のMLを作成して情報展開を図る
- ・ 時間がタイトですね
- ・ もう少しいろんな人と交流する機会があった方が良いと思いました
- ・ 基本的な研修方法をハンドアウトで出してほしい
- ・ 特に問題なし
- ・ 1つの事例をもっと長くして事例数を2つくらいでいいのでは
- ・ 今回のワークで事前に読んでおく資料を提示してほしい
- ・ 室温調整をしていただきたいです。寒すぎました
- ・ 学習理論など事前に必要とされる知識についてアナウンスいただけたと自己学習して望めるので、より効果的なワークになると思いました
- ・ 丸一日でぜひ
- ・ ホワイトボードの置き位置
- ・ グループ内で参加回数が同じ人のバランスをしてほしい
- ・ 最後に振り返りの時間があるとよかったです（グループで）参加者の学習目標の習得度があがると思う
- ・ 学習理論とのむすびつけることが難しかったです

4. 考察

本検討会は、1事例につき60分間で発表と検討を行うことが特徴である。参加者の多くからは、自らが受け持つ研修などの改善すべき点を明らかにできたとの意見も聞かれた。ただし、本検討会後に教育現場にて内容が生かされているかの追跡調査も重要である。

5. まとめ

事例検討会は、実践されている事例を他職種で共有し、改善策を見いだす場として有効であると示唆される。

参考文献

鈴木克明：研修設計マニュアル、北大路書房（2015）